

令和 8 年 3 月 1 1 日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立中目黒小学校
校長 山本 真

令和 7 年度 目黒区立中目黒小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第 1 回実施日時 令和 7 年 6 月 2 8 日 (土) 午前 9 時 0 0 分～午後 1 0 時 3 0 分
・学校経営方針
・授業参観 など
- (2) 第 2 回実施日時 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金) 午前 1 0 時 0 0 分～午後 1 1 時 1 5 分
・授業参観
・セーフティー教室参観 など
- (3) 第 3 回実施日時 令和 8 年 2 月 1 3 日 (金) 午前 1 0 時 0 0 分～午後 1 2 時 0 0 分
・令和 7 年度学校評価アンケートの結果について
・令和 8 年度の学校運営について など

2 参加者

第 1 回目：和田 茂 平野 幸恵 室井 理沙 稲葉 亮太郎 横溝 宇人
第 2 回目：和田 茂 室井 理沙 稲葉 亮太郎 横溝 宇人
第 3 回目：平野 幸恵 室井 理沙 稲葉 亮太郎 横溝 宇人

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎ (成果)、● (課題) ◎ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会の意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材活用などについて	◎保護者は 93.3%、地域は 77.8%の肯定的評価である。学校を訪れると先生方の挨拶の声や子どもたちの笑い声が聞こえ、子どもたちも仲が良く、元気で明るいと思う。先生と保護者の風通しが良く、地域と連携して子どもたちの生活と成長を見守っていただいていると感じている、との意見があり、教職員の対応については、概ね信頼感を得られている。ま	・管理職は教職員の健康に気を配り、教職員も心身の健康に気を付けるよう努力していく。 ・学習や生活の充実が児童の満足度につながるため、日々の授業の工夫や友達との関わりなど、生活の充実を図るとともに、教員の指導力の向上を目指していく。 ・児童が自己肯定感を得られるよう、よさや成果を認める指導ができるようにしていく。	・教職員の中に病休（メンタルヘルス）が出なかったのはよかった。 ・高学年教科担任制のメリットを生かした体制の充実がなされている。 ・課題をかかえている親子に対して、スクールカウンセラー、教育委員会、法務関係の相談を活用していく。カスタマーハラスメントの運用は慎重にする。伝家の宝刀と

	<p>た、日頃の学校の様子が伝わるように周知できたことが要因と考えられる。</p> <p>◎「学校生活が楽しい」の項目については、概ね良好である。様々な教育活動を実施できたことが要因と捉えている。反面、一部の保護者からは子どもの個性を認めてほしい、という意見もあり、教員間での理解を共有していく必要がある。</p> <p>◎教育活動全体の満足度では、肯定的な評価が多かったが、教育活動について、「判断できない」という意見もあった。発信の仕方を工夫する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者、地域の皆様からの満足感、信頼感を得られるよう、また、学校が大好きな子どもたちが増加するよう、安定した学級経営・学校経営を心がけ、子どもたちに寄り添いながら、教育活動を工夫していく。 ・教職員間で特性のある児童への理解の共有、周囲との関わり方等、教員間で情報共有し、対応していく。 ・教育活動を更に理解してもらうために、情報の発信を工夫して行う。 	<p>して使うのは良いが、対応は慎重にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動について「判断できない」という意見をもっている保護者に対して、学校公開も含めて情報の発信は、学校としては努力している。どうしたら「判断できる」のか、地域や保護者からヒアリングをしていくとよい。 ・個性と教育活動の満足度はどこにあるのだろうか。様々な保護者、様々な教員がいる中で大変だと思う。
<p>Ⅱ教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、時程、教育内容全体について 	<p>◎年度初めの学校説明会で明確に伝えているので理解できるとの意見が多く、保護者の91.6%が肯定的評価であった。</p> <p>◎シンプルかつ、子どもたちの成長のために大切な芯をついた目標である。実態に沿って策定されていると感じている。地域に開かれ、地域に根ざした学校だと感じているとの意見があり、わかりやすい目標であることが分かった。</p> <p>●「明るい子」については違和感を感じる。明るく元気な子だけが良いとは限らない、という意見があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も教育目標を教職員が十分意識しながら、子どもたちの実態や特性を的確に把握し、保護者・地域の方々の思いも受け止めながら、保護者会や学校だより等で情報を発信していく。 ・「明るい子」に対して保護者は、元気で活発な子と捉えているようなので、社会の一員として、規律を守り、多様性を尊重しつつ、周りの人と調和し、意欲的に交流しようとする態度の育成を目指していることを理解してもらえようように教育目標については、学校では副文を付けて理解してもらおうようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の教育目標は大体同じパターンである。戦後にできた目標である。簡単には変えられない。 ・教育目標を変えるのは難しい。 ・教育課程に具体的な事例を示し、保護者に伝えていく。 ・学校のスタンスを伝えていく。
<p>Ⅲ心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>◎心の教育の充実について、83%が肯定的評価で、概ね良好である。学校生活で楽しく過ごせることが要因だと考える。</p> <p>◎児童が担任に困ったことをすぐに相談できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「目黒区子ども条例」や「めぐろ学校教育プラン」等の趣旨を踏まえ、「特別の教科 道徳」を要とした学校の教育活動全体を通じ、子どもたちが道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの定義」は、いじめられた方が「いじめ」と捉えるといじめになる。 ・「心の教育の基盤は家庭である。」と訴えていく。 ・なぜ、道徳の時間があるのか。生活指導とは違

	<p>信頼関係があり、それが一番いじめ防止につながっているとご意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小さなからかいや友達同士の大小のトラブルはあり、いじめ防止等（未然防止・早期発見・早期対応）に努めてほしいというご意見があった。 ◎道徳授業地区公開講座で授業参観を実施したり、講話を開催したりと学校では取り組んでいるが、「分からない」というご意見も多かった。 	<p>物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにする。また、「いのち」「いじめ」「きまり」という三つの視点を重視した、道徳教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心情に寄り添うことを大切にし、学校組織として、道徳教育を充実させ、いじめの未然防止の徹底に努めていく。 ・道徳授業地区公開講座を通して道徳科の授業を充実させていく。 	<p>う。道徳は行動を通して自分に捉えて考える。心のビタミン剤を吸収する時間である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座は形骸化している。 ・日常の学校生活について保護者にも考えてもらう。保護者との相互理解を深めていく。 ・「心の教育」の半分以上は家庭の問題ではないか。他者とどう接していくのかが心の教育である。 ・地域の方をゲストティーチャーとしてお呼びし、「命の授業」をしてもらうなどしていくこともよい。
<p>IV学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、マイタイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎低学年は91%、高学年は93%の児童が学校の学習が分かる、と回答しており、教科担任制や習熟度別の算数の学習が成果をあげている結果だと思う。引き続き主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。 ◎児童はマイプラン、マイタイム、マイプラン学習など、独自の取組のおかげで、主体的に考え、学ぶことができている、というご意見をいただき、継続してほしいとのご意見があった。 ◎職場体験等体験活動では、社会の仕組みや働く人々の役割を実感的に理解する機会となっている。自然宿泊体験教室については、集団生活への適応や基本的な生活習慣の定着、自立心や協調性の育成に寄与しているため効果的である。児童・保護者にとってはこれらの活動に大変肯定的ではある。反面、見学中心となり、学習として 	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間を40分として、40分授業午前5時間制により時間割を編成している。これにより、授業時数の確保と放課後の時間の有効活用を実現し、授業改善を図り、指導の効果を高めるとともに、指導の重点化を図り、特色ある時間割を活用したカリキュラム・マネジメントをさらに充実させていく。 ・毎週金曜日の6校時を第3学年以上ではマイタイムの時間とし、個別学習（自学自習タイム）や個人探究（フリースタイルプロジェクト）として活用する。また、低学年では午後に短時間学習を設定し、自学自習タイムにつながる、学習用情報端末等を活用しながら、「指導」→「評価」→「振り返り」というサイクルでの基礎的・基本的な学習の時間とFSPJにつながる児童主体の探究時間の時間として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・90%以上の児童が学校の学習が分かる、という回答は素晴らしい。学校の教師の努力の積み重ねである。 ・「マイタイム」「マイプラン学習」は中目黒小学校の特色ある教育活動である。この取組は次の学習指導要領に関わるので、是非、やっていく。 ・商店街へのお店体験等、キャリア教育につながる良い取組である。地域との協力をフィードバックすることが大事である。お礼の手紙を書くなどする。 ・学習用情報端末は子どもの抜け道がある。予防策を考える。ルールを破って使うのか、ルールを守って使うのか、学校としてルールを示していく。 ・情報モラルは引き続き根気強くやっていく。 ・職場体験、自然宿泊体験

	<p>の深まりが十分でないことや、教員の業務負担が大きいのが課題である。</p> <p>●学習用情報端末の活用について、肯定的意見が多かった。反面、保護者は紙媒体のドリルを使ってほしいと思っている。発達段階により紙媒体のドリルを取り入れた。また、学習用情報端末を学習以外の目的で使用している事が多く、困っている、との意見もあったので、対応策が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着が不十分な児童には、放課後の時間を有効活用した「中目寺子屋」で個別指導をし、定着を図っていく。 ・自然宿泊体験教室では、体験的な活動を重視するとともに、学習活動のねらいを明確にし、2ヶ年の活動を系統的に捉え、発展・充実を図る。 ・学習用情報端末の使用について、使うことが目的ではなく、よりよい学習を進めていくためのツールの1つとして、効果的に活用できるように指導していく。 ・発達段階に応じて、学習用情報端末と紙ドリル等を使い分けている。継続したい。 	<p>等、外との刺激が多いのは視野が広がって良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用情報端末は、家庭の負担が減ったと思う。 ・学習用情報端末のモラルについて、楽しいことに子どもは惹かれていく。何か起きた時に教師や親が対話できる関係性を構築していくことが大事である。 ・学習用情報端末を使つての授業も大事だが、特に低学年は鉛筆で書かせたい。学校では紙ドリルとの併用もしているようなので、引き続き継続してもらいたい。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>●体育・健康教育に関して全体的に肯定的評価である。運動会を実施した結果であると考ええる。しかし、東京都統一体力テストの結果をみると全国平均を下回る項目もあり、特に持久力が低いので、体力向上に向けて体を動かす機会や取組を増やしていきたい。</p> <p>◎歯科校医による「歯科指導」がとても良い取組だという意見があり、継続していく。</p> <p>●水泳指導が少ないと感じているとのご意見があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の体力の向上のためには、子どもたちが健康の保持増進や体力の向上に関心をもち、運動の日常化を図ることが必要であるため、児童一人ひとりがめあてをもって、自分の健康や体力向上に進んで取り組むことができる環境づくりに努める。 ・東京都統一体力テストの課題点として持久力が低かったため、授業では主運動の時間の確保を行う。長縄集会、休み時間での校庭・屋上遊びの推進や言葉かけを継続的に行い、運動能力・体力の向上を図っていく。 ・高学年教科担任制を実施しており、5・6年生とともに、全学級を体育担当の教師が指導している。 ・健康指導も充実できるよう、外部講師も活用しながら計画的に実施していく。 ・水泳指導に関しては、暑さ指数(WBGT)の数値の関係で実施できない時もあったので、他行事との兼ね合いを考え、水泳指導期間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都統一体力テストの結果を年間指導計画に反映していく。 ・歯科校医による授業の毎年実施は良い。給食後の歯磨きの日常化を検討していく。 ・体力向上のためのゲストティーチャーや外部指導講師を年間の中で入れていく。それにより、児童の運動への意欲が高まっていく。 ・水泳時間の期間を延長したのは良かった。 ・体力が違うと集中力が違う。体力は何をするのにも大事である。体育は走るが全ての基礎になる。走り方の基本を教えてほしい。 ・長縄の取組はとてもよい。 ・体が強くないと、頭が働かない。持久走をもっと取り入れてほしい。 ・水泳は、屋根付きにできないのか。屋内プールに通えないのか。

<p>Ⅵ特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事に関しては運動会、学習発表会、学校公開など、多様な行事があり、充実していると感じており、全校フェスティバルは他学年との繋がりが生まれ、とてもよい行事だと思っている。また、昔はなかったような係活動やクラブ活動があり、おもしろく見守っているとのことがあり、87%が肯定的評価だった。 ●高学年の保護者より、月に1回しかないクラブ活動の意義がわからない。任意にして、早く帰宅させてほしい。というご意見もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の充実については、教職員も課題意識があるため、クラブ・委員会の指導や異学年交流の持ち方などの改善点を踏まえ、来年度はさらに教育効果が高まるような活動にしていく。 ・異学年交流については、高学年をリーダーとしてさらに主体的な活動になるよう教職員の意識を高めていく。 ・地域や保護者の人材等に協力いただきながら、引き続き、特別活動を進めていく。クラブの意義や活動内容など、発信していき、理解してもらえるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的意見を取り入れて、現在の取組を継続していく。 ・クラブ活動は続けていってほしい。 ・否定的な意見は、主観的意見であるので、取り入れなくても良い。 ・地域人材を生かしてクラブ活動をしていくのもよい。
<p>Ⅶ学校生活全般について</p> <p>＜生活指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校生活全般についての肯定的評価は、概ね良好である。しかし、保護者の方の中には、様々な背景や価値観をもつ児童を一つにまとめることが困難と感じている方もいることが分かった。 ◎副籍交流で特別支援学校のお子さんとの交流もあり、良い試みだと思う。との意見があった。交流に関しても肯定的である。 ◎全体的に落ち着いていると思う。中には落ち着くことが難しい児童や積極性に欠けてしまう児童にも先生方が寄り添っていて良い、との意見があった。 ●「判断できる取組内容を認識していない。」という回答も多く、対応策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直しは、児童が自らの生活をよりよいものにするという主体性を重視した取組を行う。 ・生活のきまりについては、子どもたちが安全で安心して生活できるためのものであることを理解させるとともに、生活指導部会等で問題点や課題点について検討していく。 ・生活指導に関わる問題点については、教職員内で、確実に情報を共有し、組織的に解決できるようにしていく。 ・生活指導部会で必要と判断した児童については、個人カルテを作成し状況を記録し、定期的に担任が校長に報告する。 ・不登校の予防・解消には、担任が家庭との連携を図り、情報を共有しながら児童に寄り添っていく姿勢で取り組み、適宜、家庭訪問をする。また、相談機関と連携したり、保護者と相談したりしながら、学習の保障に努めていく。さらに、スクールカウンセラーと連携して、保護者との面談や当該児童との面談を実施し、指導に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直しについて、子どもたちと考える。そういう場面をつくって、子どもたちと一緒に取り組んでほしい。 ・中目黒小学校の強みとして、素晴らしい特別支援教育支援員、特別支援教育コーディネーター、すずかけ教室の教員との連携をしていってほしい。 ・低学年の時、学校に来られない子がいたが、学年が上がるにつれて、行けるようになった。という話を聞いた。学校としての取組はできることはやっており、個別に対応している。 ・DE&I(多様性・公平性・包括性)を推進していく。学校は個性のまとまりなので、まとめる時に大変だと思う。先生方も新しい知識を認識して欲しい。

<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎安全教育について肯定的評価は、概ね良好である。引き続き、事故や災害等について危機感を持ち、安全教育をより充実させていく。 ◎学校は、防犯・防災への意識付けと指導を細やかにしている。避難訓練の機会が多く、避難経路などはよく理解しているとのことご意見をいただいた。 ●避難所としての学校の防災計画が定まっていない。本当に大きな災害の時に備えての対策が不十分である。 ◎事件・事故防止として、警察や外部団体と連携しての安全指導を実施したのはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティ教室、防犯教育プログラムの実施、地域安全マップづくり、防災教育、「防災ノート」「SNS 東京ルール」「東京マイタイムライン」の冊子を活用して知識と判断力を身に付ける。 ・震災教育などをとおして、安全確保についての実践力や規範意識を高める。 ・地域との連携を図り、集団下校訓練や引き渡し訓練を実施する。 ・避難訓練時の設定について、より実際の場面に近く、なおかつ様々な場面設定をし、児童自身に身を守るための行動について考えさせる活動にしている。 ・月に1度の安全指導について、年間計画を見直し、児童が主体的に生活安全について考えることのできる内容にしている。 ・地域の防災担当チームと連携して防災計画を立てる。また、校内の避難所の場所の確認をしている。 ・引き続き、行政や地域等と連携しながら安全指導を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨の時のマニュアルを作っておくと良いと思う。情報収集をしていく。どう対応するかを考えてほしい。 ・実際に災害が起こったときの連絡手段として、NTTの災害ダイヤル「171」の訓練を学校でも取り入れてほしい。 ・防災の専門家を呼んで、学校公開の時などに親子で防災を考える機会を設けてもよい。 ・「避難所としての学校の防災計画が定まっていない。」という意見に対して、学校独自に考えることではない。地域の「避難所運営委員会」の運営に従う。 ・校内にある、防災倉庫の場所や非常警報装置等を確認しておく。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中の連携や交流は、中学校の先生が授業を実施し、めぐろ子どもいじめ会議への5年生の参加、中学生の職場体験等、様々な連携や交流を計画的に実施しているが、保護者の中には「実際に何をしているか、よく分からない」というご意見が多かった。 ●コロナ禍前に実施していた幼稚園・保育園の学校見学や交流が、そのまま途切れているので、幼保小の交流も計画的に実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の「小・中連携の日」を通して、目黒中央中学区の5校が主体的に学び合う子どもの育成をしている。引き続き、保護者や地域に伝えていく。 ・中学生の職場体験教室も引き続き受け入れる。 ・保護者への情報が伝わっていないことが想定されるので、本校の教育活動について広く伝えていく必要がある。 ・「幼保小の連携」に関しては、低学年と地域の幼・保との関わりの場や5年生と年長児との交流の場を設定したり、行事などでの交流をしたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携は大事だと思うので、引き続き取り組んでいく。 ・幼保小との交流は小1プログラムとの兼ね合いもあるので、とても大事な事である。ぜひ、取り組んでほしい。 ・引き続き情報発信は行っていく。 ・学校での情報発信はきちんとやっていると思う。

<p>Ⅷ情報の発信、家庭・地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信の充実について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「学校が情報を分かりやすく伝えている」の肯定的評価は、概ね良好である。C4th Home&School や学校ホームページ等でこまめに発信できたことが要因と捉えている。 ◎学校長の「学校日記」(学校ホームページ)で、日々のタイムリーな様子がよく分かるようになった。 ◎C4th Home&School での担任との連携がスムーズにできてよい。 ●C4th Home&School の配信通知数が多すぎるというご意見もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校だよりや学級だより、C4th Home & School 等で、こまめに情報を発信していき、随時学校の情報を伝えるようにしていく。 ・より具体的に学校の様子を伝え、児童の様子を知ってもらうようにする。 ・特に朝、教員が忙しくて、C4th Home&School の既読を付け忘れ、保護者から電話がくるのがあったので、返信・既読など必ず対応するようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中目黒小学校の情報発信の取組は、学校の様子が分かって地域や保護者にとっては良い。 ・発信するときの「重要度」を付けて工夫して発信するのがよい。 ・「情報発信の多過ぎる。」という意見に関しては特に問題がないと思う。 ・引き続き、随時、情報発信を行う。
<p>Ⅸ教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員としての自覚について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教員の回答は 100%が肯定的で、自覚をして取り組んでいる。若手教員が増えている中、指導技術を継承していくために、OJT の機会を充実させてきたことが要因と捉えている。 ◎校内研究が充実しており、互いに学び合いがあり、深まったと捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教育公務員としての自覚を維持し、授業力向上、服務事故防止に努めるとともに、児童育成のために日々研鑽を積むことができるよう、OJT の機会を充実させていく。 ・高学年での教科担任制をより活性化し、人材育成にも活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究が大変充実している。校内の先生方にも刺激を与えているのではないかと思う。ぜひ、次年度も頑張ってもらいたい。 ・先生方には感謝している。日々、努力している。子ども一人ひとりをよく見ている。 ・今後も OJT の充実をしていってほしい。
<p>X教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ C4th Home&School や留守番電話機能の導入により、連携しやすいとのご意見をいただいた。便利になった反面、保護者への返信に時間がかかることが考えられる。データ活用やタイムマネジメントなどには、まだ課題があるのが要因と捉えている。 ◎都や区から「働き方改革」についての推進に関する周知がなされており、理解が深まり浸透したと捉えている。 ◎教員間で業務分担、組織的な業務の効率化・最適化はできているが、年々、保護者対応で時間を取られることが多くなってきた。改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が、困り感や悩みを抱え込むことなく、特別支援教育支援員や関係諸機関、地域などと協力し合い、学校の中だけでなく、チームで解決していく。 ・業務の引き継ぎ・役割が十分機能するような配置や分担を細かく決めて働き方改革につなげていく。 ・PDCAに努めるとともに、業務の効率化・最適化を意識して職務を遂行していく。 ・教育活動のDX化を積極的に推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革について、「長く働いていることが良い。」ではなく、効率的に働くように、長時間仕事をしている教員には面談などしていく。 ・留守番電話が保護者対応にとって有効な取組となっていると思う。 ・時間を短く成果を上げる。 ・先生方のメンタルを強化してほしい。倒れないように願っています。

<p>X I 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎教員の回答は 100%が肯定的で服務事故防止について自覚をもって取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回の服務事故防止研修を実施し、服務事故防止に努める。 ・服務事故防止のスローガンを職員室の目立つところに数枚掲示したり、服務事故防止研修を実施したりしている。また、都から配信されている「ふくむニュース」を都度教員に周知していることで、良い効果をあげていると捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いにも気を付けて行ってほしい。 ・服務事故防止の研修は大事だと思う。「全てを失う」ということを、伝えていく。
---	--	--	--